

## 先達から学ぶ

一橋大学大学院法学研究科 准教授 遠藤 啓

読者の皆さん、はじめまして。この4月に一橋大学大学院法学研究科准教授を拝命いたしました、遠藤と申します。若輩者にもかかわらず図書紹介をさせていただくことになり、大変恐縮しております。これから、皆さんの業務の参考になるような図書をご紹介できればと思いますので、お付き合いいただければ幸いです。

どのような本が皆さんの業務の参考になるだろうと悩んだ結果、やはり先達から学べることは多かろうということで、今回は公務員の先輩の書籍を皆さんにご紹介します。

まず、一冊目は『逆境リーダーの挑戦—最年少市長から最年少知事へ』〈PHP新書〉（鈴木直道／著、PHP研究所、1,210円）です。北海道知事である著者は、知事になる以前には、高校卒業後に東京都庁に入庁し、働きながら大学を卒業。その後、夕張市に派遣されたのち、内閣府への出向中に夕張市長選挙に立候補するため退職し、当選。夕張市長を2期務めています。このように、道・市で首長を経験し、国・



『逆境リーダーの挑戦—最年少市長から最年少知事へ』  
鈴木直道／著 PHP研究所

都・市で行政官を経験しており、この本から学べる教訓というのも、非常に具体的であり、かつ、いい意味で「(元)公務員らしくない」ものです。

例えば、何かを決断する際の指針

について、著者は「信頼のおける方に相談し『Aがいいんじゃないの?』と言われたら、人間誰しも『そうかな』とってしまう」ため、「自分の気持ちが決まらないうちは人に相談しない」で「やりたいか、やりたくないかを徹底的に自問」し、「しっかり固まってから、尊敬し信頼している方々に『私はこう決めました』と事後報告の形で話をし、『何か今後のアドバイスをいただけますか?』とお願いするようにしています」と述べています。私を含め、公務員の皆さんは人の話を聴こうとするあまり、決断が遅れてしまうこともあると思います。そうした際に、この一節を思い出したいですね。

二冊目は『新装版 役人道入門—組織人のためのメソッド』〈中公新書ラクレ〉（久保田勇夫／著、中央公論新社、968円）です。著者は大蔵省に入省し、国土事務次官まで勤め上げた元官僚です。この本は、単行本として刊行されたのが2002年ということで、登場するエピソードはやや古いですが、時代を問わず、また、国家・地方を問わず、公務員として普遍的に必要な技術、ひいては「役人道」を教えてください。日々の業務に忙殺され、どのようなスキルを身につければいいのか見失ってしまった方は、この本に立ち戻れば、良い示唆が得られると思います。



『新装版 役人道入門—組織人のためのメソッド』  
久保田勇夫／著  
中央公論新社